

教職大学院における 「教師塾」の取組



琉球大学大学院教育学研究科
教職実践講座(教職大学院) 白尾裕志

教職大学院における「教師塾」の取組

1 はじめに

教職大学院の新設と共に始まった「教師塾」

2 取組

(1)2016年度

(2)2017年度

(3)2018年度

(4)2019年度

(5)2020年度

(6)2021年度

3 参加者の様子

4 おわりに

多様な教育実践研究の成果の共有をめざして



教職大学院における「教師塾」の取組

1 はじめに

「教職大学院の新設と共に始まった『教師塾』」

「教師塾」は琉球大学に教職大学院が設置された時から、「フレッシュ先生応援セミナー(教師塾)」として始まりました。

最初の中頭地区の教育委員会の支援(会場提供等)を受けながら、土曜日の午前中を中心に教職大学院の教員だけでなく外部講師も招聘して2時間から3時間の枠組みで、学校現場の先生方や特に経験年数の浅い先生方の要望に応えるように、毎回、内容を工夫しながら取り組みました。

教職大学院における「教師塾」の取組

また、島嶼県である沖縄県内の学校と琉球大学教育学部・教職大学院との連携を強化しながら、若手・中堅教員の資質向上を図り、教師の力量を高める沖縄型「教師塾」モデルの開発も目指しました。

一方的な講義にするのではなく、参加者の悩みや課題を共有し、テーマづくりを行い、つながりをつくるように工夫しました。だから話を聞くだけの講義・講座ではなく、ワークショップを取り入れ参加者が実技やグループワークによって、技術を身につけられるようにしました。最後にユンタクを設け、お互いの近況を交流する時間を取ることで悩み相談や情報交換を進め、実践の幅を豊かにできるヒントづくりにもしました。

教職大学院における「教師塾」の取組

「教師塾」の特長は次の4点にまとめられます。

- ① 大学3, 4年生の学生には、卒業前から、卒業後に教育現場で働くことを予定している学生と話し合い、名簿をつくり研究会を組織する卒業生のアフターケアを意図した取組。
- ② 採用後間もない教師を対象とし、もうひとつは離島で働く若い教師支援を目的としている。学習の機会が少ないので、こちらから出向く形で場を提供する。
- ③ この学習会は、連続して一年間行うものであり、単発的なものとは異なる性質を持っている。
- ④ 大学教員が話すことが多いが、若い教師の中に世話人をつくり、運営についても話し合っている。共同して運営にあたっている斬新的な学習会である。

教職大学院における「教師塾」の取組

2 取組 (1)2016(平成28)年度

16回の教師塾を宮古・八重山の離島を含めた県内7カ所で実施して、延べ422人の先生方が参加しました。

その成果は『琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻紀要』(第1巻)に掲載しました。教師だけでなく学生の参加もあり、有志の勉強会に発展したグループもありました。

取り上げた主な内容

授業づくり／学級づくり／算数科の授業／学級の係活動／生徒指導・生活指導上の課題／成績処理／授業で「書くこと」の意味／アクティブ・ラーニング／国語の授業づくり／発問／授業研究の事例／いじめ問題／不登校問題

教職大学院における「教師塾」の取組

2 取組 (2)2017(平成29)年度

16回の教師塾を宮古・八重山の離島を含めた県内5カ所で実施して、延べ433人の先生方が参加しました。

その成果は『琉球大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻紀要』(第2巻)に掲載しました。

学級づくり、国語、算数、道徳等の授業づくりの話題を通して、単に方法としてだけではなく、子どもたちの関係の世界、教科等の特質に基づいた教材研究の見方や考え方について考える場となりました。島尻地区では、島尻教育事務所と島尻教育研究所の先生方の要望を取り入れた企画を進める等、教育行政を中核とした連携が深まってきました。

教職大学院における「教師塾」の取組

2 取組 (2)2017(平成29)年度

石垣市では学校側の要望を出して、学校を中心とした企画として校内研修に位置付けた取り組みがなされ、学校現場、教育行政、教職大学院が教育の課題を検討して、要望に応える企画・提案がなされるようになってきました。

教職大学院における「教師塾」の取組

2 取組 (2)2017(平成29)年度

取り上げた主な内容

算数科の授業づくり／学級づくり／道徳科の授業づくり／算数科の提案授業「数の不思議」／国語科の提案授業「学級討論会をしよう」／アクティブ・ラーニング／班活動の指導／次期学習指導要領／高校数学の授業づくり／不登校問題／道徳科の提案授業「泣いた赤鬼」・「情報モラル」／「深い学び」をつくる／社会科の授業づくり／生徒指導・生活指導の課題／支持的風土のある学級づくり／特別な支援を必要とする児童・生徒を理解し支援するための具体的な支援のあり方

教職大学院における「教師塾」の取組

2 取組 (3)2018(平成30)年度

予算削減のために実施が難しくなるなかで、離島(石垣島・久米島)を中心に取り組みました。

参加者:児童生徒60名／教職員43名

10月19日(金):①道徳提案授業(石垣市立明石小学校)
題材「かさ」(内容項目:親切・思いやり)

②道徳提案授業(石垣市立大浜小学校)
題材「生きる」(内容項目:生命の尊さ・よりよく生きる喜び)

10月20日(土):講座「新学習指導要領に基づいた中学校道徳授業の指導方法と評価」 八重山教育事務所(研修室)

12月16日(土):「子どもの瞳が輝く学級づくり・12か月」

2018年3月時点での教師塾の実施地域

2018年3月30日現在

教師の力量を高める沖縄型『教師塾』モデルの開発

(通称「先生応援セミナー」)の実施地域



石垣島地区 3回実施

- ①5月26日(金)～27日(土): 藏満・白尾
(新川小学校、八重山教育事務所)
- ②10月20日(金)～21日(土): 道田・白尾
(石垣小・中学校、八重山教育事務所)
- ③2月2日(金): 白尾(宮良小学校)
- ④3月15日(木): 白尾(各退職教員自宅)



宮古島地区 2回実施

- ①6月10日(土)
- 伊禮・丹野
- ②2月10日(土)
- 伊禮・丹野

琉球大学 3回実施

- ①8月10日(木)～11日(金)
- 伊禮・外部講師3名
- 山城康一・青木慎恵・金城文子
- ②11月18日(土)
- 丹野・白尾・外部講師2名
- 西川 満・大和久 勝
- ③2月17日(土)
- 伊禮・小林俊道(外部講師)

島尻地区 2回実施

- ①8月8日(火)
- 比嘉・川上・森・白尾
(島尻教育研究所)
- ②2月24日(土)
- 川上・森・城間・白尾

沖縄市地区 5回実施

- (沖縄市教育委員会)
- ①4月22日
- 伊禮・丹野・白尾
- ②5月20日
- 丹野・白尾
- ③6月17日
- 伊禮・丹野
- ④9月30日
- 丹野・関口 武(外部)
- ⑤2月3日
- 丹野・白尾

教職大学院における「教師塾」の取組

2 取組 (3)2018(平成30)年度

予算削減のために実施が難しくなるなかで、離島(石垣島・久米島)を中心に取り組みました。

参加者:児童生徒60名／教職員43名

1月31日(金)

①道徳提案授業(久米島町立久米島小学校)

題材「たっくんもいっしょに」(内容項目:公正・公平・社会正義)

②特別支援教育に関する面談(久米島町立久米島西中学校)

③道徳提案授業(久米島町立大岳小学校)

題材「うばわれた自由」(内容項目:自由と責任)

④特別支援教育に関する観察・助言(久米島町立仲里小学校)

2月1日(土):①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた支持的風土のある学級づくり(久米島町教育委員会会議室)

②特別な支援を必要とする児童・生徒を理解し支援するための具体的な支援のあり方

教職大学院における「教師塾」の取組

2 取組 (4)2019(令和元)年度

予算削減のために実施が難しくなるなかで、2件の「教師塾」に取り組みました。

参加者：教職員58名

11月30日(土)

内容：学級づくりと生活指導の実践的指導

テーマ：「いじめのない学級は可能か」

場所：教職大学院305教室 ※ 外部講師

3月16日(月)

内容：授業研究・理論研究

3月17日(火)

内容：琉球大学と宮古地区理科学研究会との連携についての検討

場所：宮古市立久松中学校

教職大学院における「教師塾」の取組

2 取組 (5)2020(令和2)年度

新型コロナウイルス蔓延のために実施できませんでした。

(6)2021(令和3)年度

新型コロナウイルス対策を講じた上で、外部講師招聘を中心に検討中です。

- 現代の教育的課題に応える学級づくり
- 各教科等の特質を踏まえた指導法
- 探究的・問題解決的な学習と資質・能力の育成
- 教育の現代的な課題と教師・学校の在り方

教職大学院における「教師塾」の取組

3 参加者の様子

- 今まで講座を開く機会はいくつかありましたが、今回ほど、より現場に沿って分かりやすく実践できそうなものは、なかった気がします。授業のつくり方では国語で悩むことが多くあったのですが、話を聞いてもっと楽につくれる気がしてきました。また、教室で怒ってしまう自分があり、反省が多いのですが、アプローチや考え方を変え、自分のカードを増やしていきたい。
- 大変勉強になりました。貴重な機会を頂きまして本当に感謝しています。道徳も特別支援教育もとても大切だとわかっているのですが、とても難しく日々頭を抱えていました。特に「個に応じた指導」という言葉は常に重くのしかかり、悩んでいましたが、今回の講話を聞き、日頃の授業改善の視点が重要だと分かりました。今後の実践に努めていきたいと思えます。ありがとうございました。

教職大学院における「教師塾」の取組

- トラブルがあるとその場でおさめることにしても、「集団の関係性が変わらないと、トラブルは繰り返す」ことも実感して聞いていました。「子どもをよく観察して」とか「見方を変えて」とか言われても、毎日精一杯の中では考えることができませんでした。一人で何とかしようと思っていました。一人で抱え込まずに協力を求めることやその子の背景を理解することが大切であると思いました。どうしたらそういう関わり方が出来るのか、少し考えてみたいと思います。
- すぐに実践できそうなこともありとても勉強になりました。道徳についてはモヤモヤしていた評価についてをスッキリさせることができました。学校に持ち帰ってこれからの評価を共通理解したいと思います。特別支援活動についてはどの子にもわかりやすい工夫だと思ったので、学級掲示や授業づくりに活かしていきたいと思いました。

教職大学院における「教師塾」の取組

4 おわりに～多様な教育実践研究の成果の共有をめざして～
「今回ほど、より現場に沿って分かりやすく実践できそうなものは、なかった気がします。」

こうした記述は、数多く書かれていました。この感想はその代表です。なぜこのような感想が多く寄せられたのでしょうか。

注目したいのは、「より現場に沿って」というところです。「教師塾」を行うにあたって、次の三つを実行してきました。

- ① 対象とした参加する人たちの側の要望を聞き取る。
- ② それを生かすために、参加者の中に世話人を置き、共同して運営する。また3カ月に1回修正する。
- ③ 研究会の中で実践を交流できるユンタクの場やワークショップを必ず取り入れる。

教職大学院における「教師塾」の取組

4 おわりに～多様な教育実践研究の成果の共有をめざして～

これらが、参加者の要望に沿ったきめ細かな会が運営に基づく、自分たちで運営する研究会の目指す方向だと考えました。

ワークショップ等で、参加者同士が交流することを通して、講座では得られなかった学びが広がり、参加者の満足感を高めました。

大学予算の削減や新型コロナウイルス感染症の広がりによって「教師塾」は停滞状況ですが、本学の丹野清彦教授が関わる「教師塾」から派生した研究会は、同じ状況下でも継続的な活動を続けて今日に至っています。

今後、本学の教職大学院としての「教師塾」の活動再開を契機に、より多様な教育実践研究の成果の共有が進み、大学と各学校の連携がさらに深まることを期待して、活動再開に向かっていきたいと思えます。